

D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

適応追加通知

<p>マイアクト MS 小児用細粒 10%</p>	<p>成人(嚥下困難等により錠剤の使用が困難な場合) <適応菌種> セフトレムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、アクネ菌 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、眼瞼膿瘍、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎 通常、成人にはセフトレム ピボキシルとして1回100mg(力価)を1日3回食後に経口投与する。 なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる場合は、1回200mg(力価)を1日3回食後に経口投与する。</p>
<p>ステープラ 錠 0.1mg</p>	<p>過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁 通常、成人にはイミダフェナシンとして1回0.1mgを1日2回、朝食後及び夕食後に経口投与する。効果不十分な場合は、イミダフェナシンとして1回0.2mg、1日0.4mgまで増量できる。</p>
<p>パップフォー 錠 10mg 錠 20mg 細粒 2%</p>	<p>神経因性膀胱、神経性頻尿、不安定膀胱、膀胱刺激状態(慢性膀胱炎、慢性前立腺炎) 過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁 通常、成人にはプロピベリン塩酸塩として20mgを1日1回食後経口投与する。年齢、症状により適宜増減するが、効果不十分な場合は、20mgを1日2回まで増量できる。</p>
<p>タミフルカプセル 75mg</p>	<p>A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防 予防に用いる場合 (1) 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7~10日間経口投与する。 (2) 体重37.5kg以上の小児 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、10日間経口投与する。</p>
<p>タミフルドライシロップ 3%</p>	<p>A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防 1.治療に用いる場合 (1) 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。 (2) 幼小児 通常、オセルタミビルとして1回2mg/kg(ドライシロップ剤として66.7mg/kg)を1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。 2. 予防に用いる場合 (1) 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7~10日間、用時懸濁して経口投与する。 (2) 幼小児 通常、オセルタミビルとして1回2mg/kg(ドライシロップ剤として66.7mg/kg)を1日1回、10日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。</p>

医薬品変更通知

デカドロン注射液の販売名変更について

- ・医薬発第935号「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取り扱いについて」に基づき変更されます。薬品名に含量が追記され、その含量表記は他のステロイド剤と同様、**デキサメタゾンリン酸エステル**から**デキサメタゾン換算量**へ変更となります。

デカドロン注射液 1.65mg・6.6mg
デキサメタゾン ⇔ デキサメタゾンリン酸エステル早見表

【用法・用量】

万有製薬添付文書より抜粋

1. 通常、成人に対する用法用量は下表の通りである。なお、年齢症状により適宜増減する。

	変更後	変更前	投与液量 変更なし
投与方法 (注射部位)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンとして)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンリン酸エステルとして)	(参考)(本剤の1回量: デキサメタゾン 3.3mg/mLとして)
静脈内注射	1回 1.65~6.6mg、3~6時間毎	1回 2~8mg、3~6時間毎	0.5~2mL
点滴静脈内注射	1回 1.65~8.3mg、1日1~2回	1回 2~10mg、1日1~2回	0.5~2.5mL
筋肉内注射	1回 1.65~6.6mg、3~6時間毎	1回 2~8mg、3~6時間毎	0.5~2mL
関節腔内注射	1回 0.66~4.1mg	1回 0.8~5mg	0.2~1.25mL
軟組織内注射	1回 1.65~5.0mg	1回 2~6mg	0.5~1.5mL
腱鞘内注射	1回 0.66~2.1mg	1回 0.8~2.5mg	0.2~0.625mL
滑液嚢内注入	1回 0.66~4.1mg	1回 0.8~5mg	0.2~1.25mL
硬膜外注射	1回 1.65~8.3mg	1回 2~10mg	0.5~2.5mL
脊髄腔内注入	1回 0.83~4.1mg、週1~3回	1回 1~5mg、週1~3回	0.25~1.25mL
胸腔内注入	1回 0.83~4.1mg、週1~3回	1回 1~5mg、週1~3回	0.25~1.25mL
腹腔内注入	1回 1.65mg	1回 2mg	0.5mL
局所皮内注射	1回 0.04~0.08mg 宛 0.83mg まで週1回	1回 0.05~0.1mg 宛 1mg まで週1回	生理食塩液で4倍に希釈して0.05~0.1mLを用いる。
結膜下注射	1回 0.33~2.1mg、その液量は0.2~0.5mL	1回 0.4~2.5mg、その液量は0.2~0.5mL	0.1~0.5mL
球後注射	1回 0.83~4.1mg、その液量は0.5~1.0mL	1回 1~5mg、その液量は0.5~1.0mL	0.25~1mL
点眼	1回 0.21~0.83mg/mL 溶液 1~2滴を1日3~8回	1回 0.25~1mg/mL 溶液 1~2滴を1日3~8回	4~16倍の生理食塩液希釈液を点眼する。
ネブライザー	1回 0.08~1.65mg、1日1~3回	1回 0.1~2mg、1日1~3回	生理食塩液で10倍に希釈して0.25~5mLを用いる。
鼻腔内注入 副鼻腔内注入	1回 0.08~1.65mg、1日1~3回	1回 0.1~2mg、1日1~3回	0.025~0.5mL
鼻甲介内注射 鼻茸内注射	1回 0.66~4.1mg	1回 0.8~5mg	0.2~1.25mL
喉頭・気管注入 中耳腔内注入 耳管内注入	1回 0.08~1.65mg、1日1~3回	1回 0.1~2mg、1日1~3回	0.025~0.5mL
食道注入	1回 0.83~1.65mg	1回 1~2mg	0.25~0.5mL

2. 多発性骨髄腫にに対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法における用法・用量は下表の通りである。

投与方法 (注射部位)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンとして)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンリン酸エステルとして)	(参考)(本剤の1回量: デキサメタゾン 3.3mg/mLとして)
点滴静脈内注射	ピンクリスチン硫酸塩、ドキシソルピシン塩酸塩との併用において、デキサメタゾンの投与量及び投与法は、通常1日量デキサメタゾンを33mgとし、21日から28日を1クールとして、第1日目から第4日目、第9日目から第12日目、第17日目から第20日目に、投与する。 なお、投与量及び投与日数は、年齢、患者の状態により適宜減ずる。	硫酸ピンクリスチン、塩酸ドキシソルピシンとの併用において、リン酸デキサメタゾンの投与量及び投与法は、通常1日量リン酸デキサメタゾンを40mgとし、21日から28日を1クールとして、第1日目から第4日目、第9日目から第12日目、第17日目から第20日目に、投与する。 なお、投与量及び投与日数は、年齢、患者の状態により適宜減ずる。	1日10mL(ピンクリスチン硫酸塩、ドキシソルピシン塩酸塩との併用において、デキサメタゾンの投与量及び投与法は、通常1日量デキサメタゾンを10mLとし、21日から28日を1クールとして、第1日目から第4日目、第9日目から第12日目、第17日目から第20日目に、投与する。なお、投与量及び投与日数は、年齢、患者の状態により適宜減ずる。)

3. 抗悪性腫瘍剤(シスプラチンなど)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)に対する用法・用量は下表の通りである。

投与方法 (注射部位)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンとして)	投与量・投与回数 (デキサメタゾンリン酸エステルとして)	(参考)(本剤の1回量: デキサメタゾン 3.3mg/mLとして)
静脈内注射 点滴静脈内注射	通常、成人には1日3.3~16.5mgを、1日1回又は2回に分割して投与する(最大16.5mgまで)。	通常、成人には1日4~20mgを、1日1回又は2回に分割して投与する(最大20mgまで)。	1~5mL